

八尾歴史物語

四二巻

指定文化財シリーズ〈史跡〉その②〈墓・塚編〉

指定の史跡として今回は古墳をご紹介しますが、今回は、お墓と塚についてお話しします。

まずお墓では、三好長慶・義継墓（市指定）と木村重成墓（府指定）があります。三好長慶は、足利将軍を京都から追放して、畿内を統一し、四国東部を支配したことから「日本の副王」と呼ばれた戦国武将です。しかし、永禄七年（1564年）に病没し、甥の義継がその跡を継ぎました。天正元年（1573年）に織田信長との戦いに敗れ、三好家は断絶しました。北亀井町にある真観寺の境内には、二人の戒名（法名）と没年月日が刻まれた二基の墓があります。



▲三好長慶・義継の墓

木村重成は、元和元年（1615年）の大坂夏の陣で豊臣方として戦った武将です。大坂城から若江に進軍しましたが、徳川方の井伊軍に攻められて戦死しました。幸町6丁目公園内にある

墓は、重成の百五十回忌（1764年）に、首をとった安藤長三郎の子孫が建てたものです。

次に塚では、京都と高野山を結ぶ東高野街道（国道旧170号）沿いに、江戸時代に建てられた垣内村一里塚（東塚・西塚跡）「市指定」があります。塚は街道に一里（約4km）ごとに整備されています。東塚は、高さ約1mの塚の上に松が1本植えられています。地元では「一里松」と呼ばれており、現在も小字名として残っています。西塚跡には、文化七年（1810年）の銘を持つ法華塔が建っています。正保元年（1644年）に製作された『河内国絵図』には、東高野街道に11カ所の一里塚が描かれています。残っているのは垣内村一里塚と富田林市の東高野街道錦織一里塚（府指定）だけになっています。

☆問合せ 文化財課

☎ 924・8555

FAX 924・5593